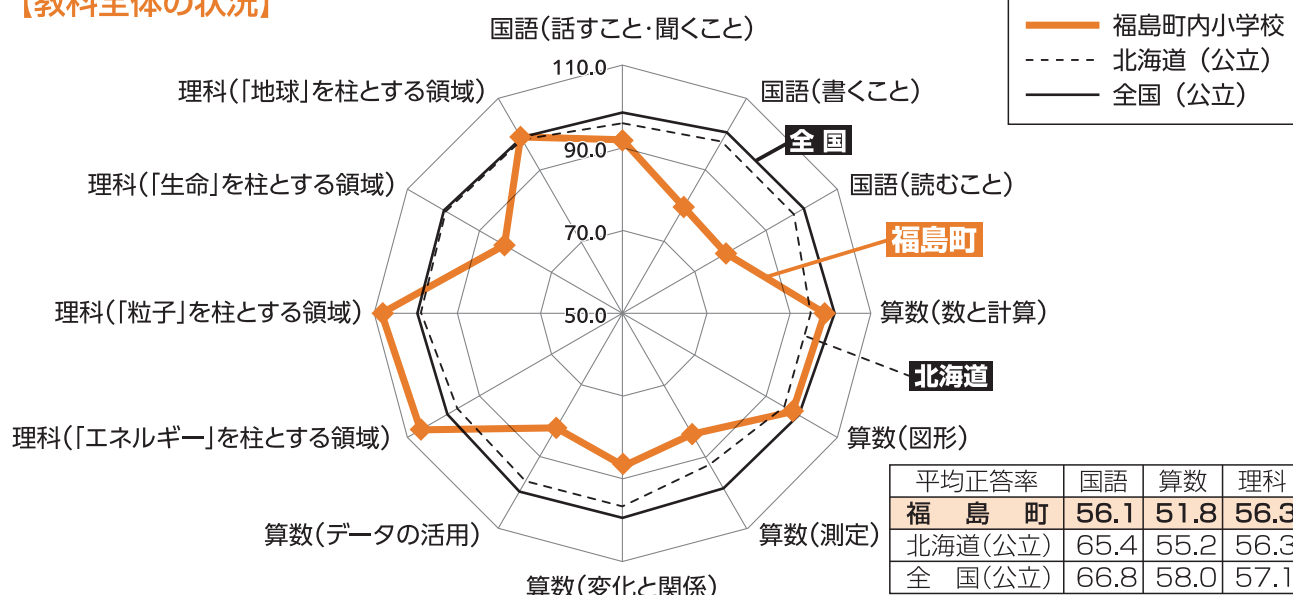


令和7年度 全国学力・学習状況調査

■福島町 小学校の状況（小学校：2校、児童数：17人）

【教科全体の状況】



教科の領域別に全国を100とした場合の全道および市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

分析および課題

国 語	分析	学習指導において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と意見交換したり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、国語の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率が、全国に近づくなど一定の成果を得ることができたと考えられます。
	課題	「読むこと」領域の解答状況や、調査後半の設問に対し、無解答の児童が見られたことから、正しい言葉の使い方や問われていることが理解できるようにさまざまな文章に触れ、読む力（読み取る力）を育む取組の充実が、今後の課題の一つです。
算 数	分析	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したり、算数の授業において、図形を画面上で自由に移動させ視覚的に納得感をもちながら思考する学習を行ったことにより、算数の「図形」領域の平均正答率が、全道を上回ったと考えられます。
	課題	「データの活用」領域の解答状況から、比較などの目的に応じて、適切なデータをグラフ内から選び出し、理由を含め数学的な言葉を使い説明するなどの取組の充実が、今後の課題の一つです。
理 科	分析	前年度までに、問題に対して既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導をよく行ったり、観察や実験の結果を整理し、考察する指導をよく行ったりしたことにより、理科の「エネルギー」および「粒子」を柱とした領域の平均正答率が、全国および全道を上回ったと考えられます。
	課題	「生命」を柱とした領域の解答状況から、顕微鏡などの観察器具の正しい使い方について理解するなどの取組の充実が、今後の課題の一つです。

今後の取り組み

- ・発達支持的生徒指導の充実を図るとともに、主体的に学ぶ児童の育成に取り組みます。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のためのICTの効果的な活用に取り組みます。
- ・児童の確かな学力の定着を図るために、教員の授業力向上に取り組みます。